

今号のトピックス

- 1ページ 「新年のごあいさつ」
- 2～3ページ 「実務研修会報告」
- 4ページ 関係団体研究大会報告



新年のごあいさつ

大阪市立小中学校事務研究会
会長 竹口 知秀

新年を迎え、早くも一か月が過ぎました。この度、令和6年能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、今なお避難を余儀なくされている皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今回の地震発生を受け、大規模災害の怖さを改めて知るとともに、自分自身の災害に対する知識や理解を深めておく必要があると改めて感じました。そこで、大阪市の防災ポータルサイトなどを確認するとともに、防災用品の整備はもとより避難経路や避難場所について、もう一度家族や親族で共有しました。また、食料については保存期間も重要ですが、精神的につらい時期に少しでも好きなものや美味しいものを食べるということが非常に有効であり、そういったものを意識的に用意しておくという記事を見かけたため、そちらも早速実践しました。なかなか普段の生活のなかで意識し続けることは難しいですが、災害は身近なものであるということ認識し、習慣づけることが「災害に備える」うえで非常に重要なことなのだと思います。

そして、今回の地震のニュースのなかで避難所として学校を映している映像がよく流れていたように思います。学校施設は大規模災害等に際し、地域住民の避難所としての役割を担っており、大阪市においても「災害時避難所」に指定されています。また、各学校で「大規模災害初期対応マニュアル」や「備蓄品一覧」等が適切に作成・管理されているとは思いますが、改めて学校全体で確認し、共通理解しておくことが重要だと思います。SKIPポータルの書庫には「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」などの防災関係資料が掲載されていますので、こちらも一読しておくの良いのではないのでしょうか。

さて、大阪市では今年度から共同学校事務室が全市実施となりましたが、会員の皆様はどのように感じておられるのでしょうか。はじめは不安や戸惑いを感じた方もいらっしゃると思いますが、その一方で集団（組織）で取組を進めることの強みや利点を感じる機会もあったと思います。その強みや利点を活かし、組織として主体的に学校経営に参画することが学校事務職員の役割であり、その役割を果たすことが大阪市の学校教育の発展にもつながるのではないのでしょうか。

私ども市事研についても「学校事務の研究を推進し、事務職員の資質と職能の向上に努め、大阪市の学校教育の発展に寄与する」という目的のもと、今年はより柔軟な発想で、新たな取組について検討していくとともに、市事研が継続的な取組のなかで積みあげてきた研究・研修資料等についても、時代に即した更新や改訂を進めていきたいと考えています。

研究会スタッフ一丸となって研究会活動に尽力してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いたします。最後に、会員の皆様の一層のご健勝とご多幸を心よりお祈りし新年のあいさつとさせていただきます。

実務研修会開催 テーマ「文書事務について」

令和5年11月24日（金）大阪市教育センターにおいて実務研修会を開催しました。改めて公文書の重要性を認識し、適切かつ効率的に処理が行えるよう、大阪市立学校文書規則をはじめとした文書事務の概要、また文書事務の流れに沿って收受・起案・決裁・浄書・施行・完結・保管・保存・引継・廃棄について説明を行いつつ、事前に研修部員が作成した寸劇の放映を交えながら研修を進めました。

『Ⅰ 文書事務の概要』 「文書」があらゆる事務・事業に関する意思決定の方式として、また、起案・執行から終結に至るまでの指針・記録として重要な役割を果たすとともに、組織全体を有機的に結ぶ役割を担っていること、文書事務の手続や処理方法の基準を示し、学校において適正な文書管理が行えるよう規定されている大阪市立学校文書規則について説明しました。



平成23年に「公文書管理法」が施行される以前の平成18年に、大阪市においては「大阪市公文書管理条例」が制定されたことについて紹介しました。その他、公文書の定義や判断基準、文書事務の原則、処理の流れ、情報公開制度と個人情報保護制度について説明し、個人情報が含まれる学校関係書類や、個人情報の漏えいを防ぐための適切な処理について、寸劇「個人情報って?」「個人情報漏えいダメ絶対」で紹介しました。また、平成22年4月から稼働した学校文書管理システムについて説明を行いました。

『Ⅱ 文書收受』 学校文書管理システムを用いた、電子收受、紙收受、その他の收受の流れや方法、供覧や回覧について説明し、学校文書管理システムで收受した文書を他の教職員へ回覧する文書回覧機能について、寸劇「文書回覧機能が好きだから」で紹介しました。

『Ⅲ 起案・決裁』 まず「意思決定」について説明を行いました。組織は多くの人からなり、さまざまな考え方がありますが、組織として事業を進めるために、考えを一つにまとめることを「意思決定をする」といい、文書事務のなかで最も基本的で重要なものとなります。「起案」については、起案に当たっての心構えや注意点、文書の作成要領について説明し、Q & A形式で「就学援助制度のお知らせ等を保護者へ配付する時は文書起案が必要?」「事務



職員名で特定の保護者へ文書を通ずる場合、起案は必要?」「教職員への周知文書に文書起案は必要?」の3点について説明を行いました。業務システムを利用した起案に関して、標題や副題、前文等の各項目の説明や入力例について、また、文書事務の効率化を図るため、業務システムのテンプレート機能や引用機能について説明しました。次に「決裁」については、どのような場合にどの決裁方法（電子決裁、紙併用決裁、紙決裁）を選択するの

か、そしてどの公開区分（公開・部分公開・非公開）を選択するのかについて説明しました。また、具体的にどのような文書が部分公開、非公開に該当するのかについて、寸劇「公開区分に熱い男」で紹介しました。

『Ⅳ 浄書・施行・完結』 浄書（清書した公文書）、施行（文書の効力を発生させる手続）、公印（文書が真正であると認証するもの）について説明したあと、意思決定を伝えるために必要な手続である文書の発送について、各種発送方法（文書送付機能、メール、校園文書等逕送、郵送）に関して寸劇「華麗に郵送方法を提案」で、逕送で送付可能な送付先や郵送経費節減について紹介しました。

『Ⅴ 保管・保存・引継・廃棄』 保管（事務の参考にできるような状態で公文書を整理・管理すること）、収蔵（常時事務の参考ではなくなった公文書を書庫等へ移して管理すること）、保管と収蔵を併せて保存ということについて説明し、文書の整理の重要性や、公文書の紛失を防止するためのルールについて、寸劇「先輩ステキ～3部作～」で、机上整理や保管場所の確保、退勤時の書類保管などについて紹介しました。また、簿冊等の編集及び分類、保存期間について



では、「学校文書分類表」にしたがって行うことや、一冊に編集しがたい場合は副題をつけて分冊にすることなどについて説明しました。文書の引継・保存については、学校文書管理システムによる簿冊管理方法と、それ以外の簿冊管理方法、学校文書管理システムによる保管文書等の検索機能や、簿冊の廃棄、廃棄延長について説明し、保存期間が1年未満の電子配信文書の廃棄延長について、寸劇「やっててよかった廃棄延長」で紹介しました。

実務研修会資料には、当日説明した内容に加えて文書起案例や、巻末に文書事務Q & Aを掲載していますので、日々の業務にご活用いただければと思います。また、本資料については今後ブラッシュアップし、会報やホームページ等を通じてお知らせしていく予定です。これからも会員の皆様の職能形成や資質向上につながる研修会を開催していきますので、研修会開催の折には積極的なご参加をよろしく願います。なお、実務研修会資料については、パワーポイント資料を含めて市事研ホームページの資料掲載ページに掲載しています。

～ アンケートより（一部抜粋） ～

- ・研修部の寸劇は分かりやすく頭に入りやすいのでGood。（ファンです）パワーポイントも要点のみで見やすく分かりやすかった。Q & Aもあり、各所に具体例があって良かった。（中学校・11～20年）
- ・パワーポイントが端的にまとめられていて、具体的な事例紹介によりメリハリもあり、最後までよく理解して研修を受けられました。資料は手に取りやすい机上に置いて、日常的に活用したいと思います。（小学校・11～20年）
- ・「学校文書規則」を常に意識して事務処理をすることはとても大切なことだということを再認識できた。マニュアルばかり気にしているケースがあるが、その元になるのは「法令・規則」だということが分かる良い事例だと思う。（小学校・21年以上）
- ・共同学校事務室会議でも「文書事務」についての話があったこと、普段の業務が落ち着き自分の今までを見直す時間ができたことでより深く考えることができた。資料の重要点がパワーポイントでしっかりまとまっており、映像のような説明で詳しい場面が想像できて分かりやすかった。（中学校・5年未満）

第 32 回 大阪府公立学校事務研究大会報告

令和5年11月1日(水)にクレオ大阪東にて、第32回大阪府公立学校事務研究大会が開催されました。開会行事のあと、行政説明として、大阪府教育庁 教職員室教職員人事課 小中学校人事グループ 課長補佐 柴原 朋子 様より、府内における共同学校事務室の状況や、第2次大阪府教育振興基本計画等について説明がありました。

続いて、SOS子どもの村JAPAN 子どもの村福岡 村長 足立 慎一 様より、「学校改善と学校事務職員のリーダーシップ ～学校予算を通して～」と題し、福岡市の学校事務職員として採用後、教頭、校長を歴任した講師自身の経験から、いま求められるリーダーシップとは何か、学校予算におけるリーダーシップとは何なのか、そしてそれらを踏まえつつ、リーダーを養成する研修制度は今後どのようなものにしていくべきかといったテーマについて、各地の事例にも触れながら講演が行われました。

最後に、大阪府公立学校事務研究会 研究部より、共同実施の機能について他の自治体が組織調査及び実践事例研究を行ったまとめが報告されました。今後さらに研究を進め、令和7年度に開催される「第57回全国公立小中学校事務研究大会 滋賀大会」において、トータルプロデューサーとしての学校事務職員を支える大阪の共同学校事務室についての提案につなげていきたいと締めくくり、大会は終了しました。

第 52 回 滋賀県公立小中学校事務研究大会報告

令和5年11月27日(月)に滋賀県立男女共同参画センターにて、第52回滋賀県公立小中学校事務研究大会が開催されました。「創造しよう！教育を活かす学校事務を」を大会テーマに掲げた今大会では、滋賀県大津市や高島市などの湖西ブロックが主管となり、研究報告が行われました。

開会行事のあと、全体会として、湖西ブロックでの共同学校事務室や共同実施での実践事例として、教職員向けに行った校内研修や、校外学習に使用するバスの業者選定にかかる様式の統一などについて報告がありました。

続いて、文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長(併)教育政策・評価研究部長(命)教育データサイエンスセンター センター長特別補佐 藤原 文雄 様から「共同学校事務室を生かした学校運営への参画」と題し、学校事務職員が組織的に学校運営へ参画していくなかで必要な要素についての講演が行われました。

午後からは二つの分科会が行われ、第一分科会では「共同学校事務室をアップデート ～チームりっとうの挑戦～」と題し、栗東市での共同学校事務室での現状や課題などが報告されました。また、Webによるアンケート作成機能を用いて、参加者がリアルタイムに意見を発信する形での意見交流も行われました。

最後に、令和7年度に開催される「第57回全国公立小中学校事務研究大会 滋賀大会」に向けた報告などが行われ、大会は盛会のうちに終了しました。

編集後記

新年を迎え、市事研ホームページもリニューアルしました。
会報1ページのQRコードからも簡単にアクセスできます。(Y)

